

## 10月15日のウクライナ情報

安齋育郎

### ①露新型兵器が宇軍の航空機に脅威＝米誌(2023年10月12日)

ロシアの新型無人機「ランセット」がウクライナ軍の Su-25 戦闘機攻撃に成功したことで、ウクライナ側は深刻な脅威に直面している。米誌フォーブスのコラムニスト、デビッド・アックス氏が指摘している。

アックス氏によると、爆薬を搭載したロシアの「ランセット」がドネプロペトロフスク州クリヴォイ・ログ市近くのドルギンツェボ空軍基地でウクライナ空軍の Su-25 戦闘機を攻撃したという。これは同基地に展開するウクライナ軍機に対し、過去 3 週間で 2 回目の無人機攻撃。クリヴォイ・ログ空軍基地はウクライナ南部の前線から 45 マイル(72.4 キロ)の場所にある。これまで「ランセット」は航続距離が 25 マイル(40 キロ)だったことから、今回の作戦で使用されたドローンが新型だという。

アックス氏は新型ランセットについて、ウクライナ空軍に深刻な脅威をもたらすと指摘し、ウクライナ軍司令部はロシアの無人機攻撃から教訓を得ていないと評価した。そのうえで、数少ない航空機を破壊されないよう、ロシア側から隠すようウクライナ側に助言した。

ロシア国防省は 9 月 19 日、ドネプロペトロフスク州のドルギンツェボ飛行場で、ウクライナ軍の MiG-29 戦闘機を無人機で攻撃したと発表していた。



<https://sputniknews.jp/20231012/17389871.html>

### ②【ノーカット版】「ロシアの勝利 ウクライナに屈することはない」鈴木宗男議員 国営メディアにメッセージ — 2分55秒動画(北海道ニュース UHB, 10/6(金) 18:15 配信)

日本維新の会の鈴木宗男参院議員が訪問先のロシアで国営メディアのインタビューに応じた動画が 10 月 4 日公開され、「ロシアの勝利を確信している」と述べた鈴木議員のメッセージが掲載されました。

動画は 10 月 3 日にロシア国営メディア「スプートニク」が首都モスクワで撮影したもので、テロップ

(字幕)を入れ、記事とともに電子版へ掲載しています。

鈴木議員はウクライナ侵攻を「特別軍事作戦」とロシアの見解にそって表現したうえで、持論を展開。「ロシアの勝利、ロシアがウクライナに対して屈することはない。ここは私は何の懸念もなく、100%確信を持って、ロシアの未来、ロシアの明日を信じているし、理解している」と語りかけました。

スポーツニクはロシア側の主張を世界に発信するため、英語をはじめ、フランス語やアラビア語などでも記事や動画を配信していて、日本語でも提供されています。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/eb7514a4bf01fc6e4b04649fd93f4258355cffd1>



### ③イスラエルはハマスの攻撃を知らされていた(及川幸久、2023年10月12日)

イスラエルはハマスの攻撃を知らされていた、について YouTube で解説しました:  
イスラエル政府には世界最高レベルのスパイ組織、モサドがある。なぜモサドは察知できなかったのか？

いや、イスラエル政府は知っていた。エジプトのスパイ組織がイスラエルに警告したが、イスラエルは無視した。

イスラエルはガザ地区のパレスチナ人ではなくヨルダン川西岸の方に焦点を当てた。ネタニヤフ政権は、ヨルダン川西岸地区の入植者の支持者で構成されているからだ。支持者から同地区の治安取り締まりを要求されていたので、ガザからの脅威を軽視した。

ネタニヤフは、そのような警告を受けていない、フェイクニュースだと否定しているが。

ところが、10/11, 米下院外交委員長マイケル・マッコールが「我々は、エジプトがイスラエルに対し、このような事態が起こりうると3日前に警告していたことを知っている」と発言。

犠牲者はイスラエル人だけではなく、アメリカ人も、ヨーロッパ人もいる。ネタニヤフ政権の責任が問われるかもしれない。

10/9, ワシントンポストの論説が、イスラエルの諜報活動の失敗を論じた。著者のデビッド・イグナティウスは、“CIAの非公式広報官”と言われるように、この人が書くことはCIAが言いたいこととみなされている。

イグナティウスは、「諜報活動の失敗は単に情報不足だけでなく、それを理解できないことから生じる」と論じている。イスラエルは、ハマスの戦闘員たちがパラグライダーで空から攻めてくるという情報を理解できなかった。

さらに、イスラエル政府内の対立があった。モサド、軍、国内治安当局が、ネタニヤフの脆弱な政府に激しく反発。モサドは、ネタニヤフが最高裁を攻撃することでイスラエルを破滅させていると考えていた。

このように、モサドとネタニヤフ政権の対立が、イスラエルが諜報能力を使えなかった原因だった。

また、ここ数カ月のイスラエル国内での確執が、ハマスとその後ろ盾であるイランに、イスラエルは脆弱であると思わせたことは確かだろう。

イスラエルにとって第一の同盟国、米国では、ハマスの残忍な行為にみんな怒っている。ただ、ランド・ポール上院議員は違うことを言っている：

ハマスの攻撃への軍事的報復を急ぐ前に、米国は「事実がどこにあるのかを見極める」べきだ。

私も怒りを持っている。この凶悪犯に同情はしない。しかし、イランの核施設を空爆すべきか？イランでは核科学者の暗殺が続いている。暗殺があるたびに核濃縮は進んでいる。

間違えなくイランが関与した。しかし、9/11の後、イラクが9/11をやったと言って、イラクを攻撃した人々がいたことを思い出してほしい。イラクは9/11とは無関係だった。事実がどこにあるか調査しようじゃないか。

ランド・ポールが言うように、「事実がどこにあるのか」を考えると、ネタニヤフ政権が言っていること全てには、納得できない。



[https://twitter.com/oikawa\\_yukihisa/status/1712469001740402915?t=SagYc kt4MtX9l6zQdxwVZA&s=09](https://twitter.com/oikawa_yukihisa/status/1712469001740402915?t=SagYc kt4MtX9l6zQdxwVZA&s=09)

#### ④中東政治に関するプーチンの弁(2023年10月12日)

中東における政治の力学と、過去 40~50 年間におけるアメリカの外交官による非道な意思決定について、プーチン大統領が最高の分析をしている：

「残念ながら、中東情勢は急激に悪化している。これは、中東における米国の政策が失敗した明確な例である。米国の政策は、紛争の解決を独占しようとしたが、残念ながら、双方が受け入れられる妥協点を見出すことには関心がなかった。

それどころか、どのように解決すべきかについて自国の考えを推し進め、パレスチナ人の根本的な利益を考慮することなく、まず第一に、独立した主権を持つパレスチナ国家の創設に関する国連安全保障理事会の決定を履行する必要性を念頭に置きながら、その都度、まず一方に、次にもう片方にと、両者に圧力をかけたのである」

<https://twitter.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1712446031596777836/photo/1>



## ⑥ロシア・ウクライナ戦争:ネオナチ勢力に関するロシアの主張は事実無根なのか？(2023年9月23日)

<https://youtu.be/42Sw5XPCAAc>  
(26分間、字幕付き) 参考にして下さい。



## ⑥ウクライナ軍、ハマスに武器を密売＝トルコ・メディア(2023年10月13日)

パレスチナ・ガザ地区を拠点に活動するイスラム主義組織「ハマス」はウクライナに供与された米国製兵器をイスラエルとの紛争で使用している。トルコ・メディア、「dikGAZETE」が報じた。

報道によると、国外からウクライナに持ち込まれ、自国領内で使用されるはずだった米国製の兵器がパレスチナに流れ、現在はイスラエル相手に使用されているという。この点についてはハマスが認めているとのこと。

また、米連邦議会のマージョリー・テイラー・グリーン議員は FOX ニュースの取材に対し、ハマスが使用する兵器はウクライナ、またはアフガニスタンから流出した可能性が高いとし、調査委員会を設置する必要性を主張していた。

米国防総省のショーン・オドネル監察長官代理は 2022 年、米国の兵器がウクライナ領を越えて拡散する可能性について懸念を表明していた。

報道によると、ウクライナ軍の司令官らは西側から受け取った武器をブラックマーケットで売却していたという。ハマスがそうした兵器を使用していることはウクライナ側も認めているものの、すべての責任をロシアに転嫁しているとのこと。

報道によると、ウクライナはハマスに米製の M4 小銃に加え、携帯式防空ミサイルシステム「スティンガー」を売却した可能性があるという。ウクライナは米国から計 1500 発以上の「スティンガー」を受け取ったとされる。



<https://sputniknews.jp/20231013/17404853.html>

## ⑦イスラエル、24 時間以内にガザ南部へ避難警告 パレスチナ人 110 万人が対象＝国連(2023年10月13日)

イスラエルはガザ地区北部の住民に対し、24 時間以内にガザ南部へ避難するよう警告を発した。13 日、国連のステファン・デュジャリック報道官が明らかにした。ガザ地区を実効支配するハマスに対するイスラエル軍の地上作戦が秒読みに入った。

**住人の半数が対象**

「現地時間の日付が変わる少し前(日本時間午前 6 時前)、国連人道問題調整事務所とガザ警備安全保障省に対し、24 時間以内にワジガザ以北のガザ住人が南部に避難するようイスラエル側から通達があった」

ステファン・デュジャリック(国連事務総長報道官)

デュジャリック報道官によると、対象となるのは 110 万人。ガザ地区の人口は 222 万人といわれており、実に住民の半数が警告対象となっている。

また、現地の学校や医療機関に展開する国連職員も避難の対象となっているが、国連はこうした人道活動は移転すれば「壊滅的な人道的結果を生む」と指摘している。デュジャリック報道官は、国連はイスラエルの要求に断固として反対するとして、「すでに起こった悲劇が、大惨劇に発展しうる」と懸念を示した。

### イスラエルは自衛権主張

国連からの批判を受けイスラエルのギラド・エルダン国連大使は、デュジャリック報道官の声明を「恥ずべきものだ」と反発。「国連は長きにわたりハマスの武装化と彼らが武器や殺人を隠すために民間人や民間インフラを利用するのに目をつぶってきた」と述べた。

「ハマスのテロリストによって国民が殺され、これに関与した者以外の犠牲を最小限に抑えようとしているイスラエルを支持する代わりに、国連はイスラエルに説教をしている。国連は人質の解放やハマスの批判、イスラエルの自衛権の支持に注力したほうがいい」

ギラド・エルダン(イスラエル国連大使)

### ハマスの掃討作戦まもなくか

10月7日、ガザ地区を実効支配するイスラム組織・ハマスはガザ地区からイスラエル南部と中部に向けて突如ミサイル攻撃を行い、一部の地上部隊がイスラエル側に越境攻撃した。ハマスの奇襲攻撃を受け、イスラエル軍はガザ地区への空爆などの報復作戦を開始。第四次中東戦争以来 50 年ぶりとなる正式な「戦争状態」への移行を宣言した。これまでに双方の死者は合わせて 2500 人に達したとみられている。

ハマスの奇襲後、イスラエル軍は 30 万人の予備役を動員。また、議会では与野党が戦時下での挙国一致内閣を樹立させた。米国からの弾薬支援も受けるなど、本格的な地上作戦を準備しているとされる。

イスラエルのガラント国防相はこれまでに「ハマスは地球上から一掃される」と徹底的な報復を予告。イスラエル外務省も「ガザ地区で戦略的目標をすべて達成するまで軍事作戦を継続する」と妥協を一切許さない強硬姿勢を示している。



<https://sputniknews.jp/20231013/24110-17405374.html>

## ⑧ブチャの虐殺についての TBS の報道(2023年5月23日)

※投稿者コメント:TBS がブチャのウクライナによる自作自演でウクライナ国民を虐殺してる事を、洗脳民にもわざわざ、フェイクジャーナリストを出して挑発形式で発表し放送。

悪者の演技した日本の心あるジャーナリストさん素晴らしい。わざと感じ悪く大使に接してるとこなんて、演技も上手い。頑張れ TBS

日本のテレビも変わってきたなー

<https://twitter.com/i/status/1660776386985086976>



[https://twitter.com/w2skwn3/status/1660776386985086976?t=L3zCe7\\_dawiM8Pn3XG7l7A&s=09](https://twitter.com/w2skwn3/status/1660776386985086976?t=L3zCe7_dawiM8Pn3XG7l7A&s=09)



## ⑨宇大統領、注目を取り戻すため起死回生の策に出る = 英紙(2023年10月13日)

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領はブリュッセルで開かれた NATO の国防相会議に急遽参加し、イスラエルを巡る状況でウクライナへの関心を集めるため演説を行った。英紙フィナンシャル・タイムズ紙のコラムニスト、ベン・ホール氏が記した。

報道によると、ゼレンスキー大統領は NATO の会議で兵器の追加供与を求める演説を行った。これは米共和党による追加支援への抵抗やイスラエルによる対ハマス戦争に国際社会の注目が移る中、同盟国からの支持が減少することに対する懸念の現れを示しているという。

ブリュッセルでは国防相会議が開かれている中、ウクライナ大統領が出席したことで、会場には驚く姿が見られたと米紙ポリティコは報じている。なお、欧州ではイスラエル・パレスチナ紛争の激化に加え、フィンランドとエストニア間の海底パイプラインと通信ケーブルが損傷する事故があったことも、ウクライナ支援への関心を引き下げることになったとのこと。

先に米誌フォーリン・ポリシーはウクライナ支援により欧州では対イスラエルの兵器供与に困難が生じる可能性がある」と報じていた。



<https://sputniknews.jp/20231013/17404881.html>

## ⑩イスラエルへの対抗で新たな戦線を展開する用意ある＝イラン外務省(2023年10月13日)

パレスチナ・ガザ地区に対するイスラエル軍の行動を受け、イラン側には新たな戦線が開かれる可能性が依然としてある。イランのホセイン・アミール・アブドラヒアン外相が表明した。

イラン外相は、イスラエル・パレスチナ紛争が激化する中、パレスチナ問題に関する立場を調整するため、中東諸国歴訪の一環としてレバノンの首都ベイルートを訪問した。

外相はレバノンのテレビ局アルマヤディーンへのインタビューに応じた中で、「侵略、戦争犯罪、ガザ封鎖の継続を考慮すると、新たな戦線が開かれる可能性は依然として高い」と述べた。

外相によると、イランは政治とメディアを駆使し、「抵抗勢力」への支援を続けているという。外相はガザ地区に対する電気と水の供給遮断を戦争犯罪と呼び、イスラエルとその「スポンサー」はパレスチナ人に対する侵略の結果に責任を負うことになることを警告した。

なお、米紙ウォール・ストリート・ジャーナルがアラブ諸国当局者の話として報じたところによると、レバノンのイスラム主義組織「ヒズボラ」は仮にイスラエルがパレスチナ・ガザ地区で地上作戦を開始する場合、「第二戦線を開く」用意があると非公式に警告したという。

先にイスラエル軍はガザ地区で数カ月わたる地上作戦の準備を進めていると発表していた。



[https://sputniknews.jp/20231013/17404659.html?rcmd\\_alg=collaboration2](https://sputniknews.jp/20231013/17404659.html?rcmd_alg=collaboration2)



## ⑪イスラエル軍がレバノンとガザで禁止兵器・白リン弾を使用＝人権団体(2023年10月13日)

イスラエル軍はレバノンとパレスチナ・ガザ地区を砲撃する際、国際条約で禁止されている白リン弾を使用した。人権団体「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」(HRW)が声明で発表した。

HRWはイスラエル軍が2023年10月10日と11日にそれぞれレバノンとガザ地区での軍事作戦中に白リン弾を使用したと判断した。

人権活動家らは、世界一の人口密度と言われるガザで白リン弾を使用することは国際人道法の要件に違反していると強調した。

先にパレスチナ外務省はイスラエル軍による白リン弾の使用を発表していた。一方、国連のステファン・デュジャリック報道官はイスラエル軍による白リン弾の使用についてはいかなる報告も受けていないと述べていた。

ガザ地区では国連職員の被害も拡大している。世界保健機関(WHO)は紛争激化以来、ガザ地区の医療施設に対する攻撃が34件あったと記録している。その結果、医療従事者11人が職務遂行中に死亡、16人が負傷、医療施設19台と救急車20台が被害を受けたと発表した。

紛争はさらに激化する可能性がある。エルサレム・ポスト紙によると、イスラエル軍はガザ地区ベイト・ラヒヤの住民に対し、同地域がイスラム主義組織「ハマス」に作戦で利用される可能性があるため、避難の必要性を警告するビラを拡散しているという。



<https://sputniknews.jp/20231013/17404423.html>

## ⑫孫崎享受さん情報(2023年10月13日)

CNN[ガザ空爆で国連職員11人死亡。国連パレスチナ難民救済事業機関によると死亡した職員の内訳は、教員5人と婦人科医、技術者、心理カウンセラー各1人、支援スタッフ3人。中には自宅で家族と共に死亡した職員も。国連学校の児童や生徒も30人が死亡。イスラエルは数日間ガザ地区空爆を続行]

## ⑬ブチャの悲劇—何度でも事実を見すえましょう(投稿日:2023年10月13日)

ブチャの虐殺はウクライナの自作自演の可能性の方が高いから、鈴木さんが言ってる事は何もおか

しく無い。

ブチャの真実。ブチャの虐殺はロシア軍ではない。ウクライナ軍の仕業。

■ 3月30日、ロシア軍の部隊がブチャ市から撤退し、同日、国防省のブリーフィングで発表されました。

[http://z.mil.ru/spec\\_mil\\_oper/...](http://z.mil.ru/spec_mil_oper/...)

■ 翌31日、ブチャ市のアナトリー・フェドルク市長はビデオメッセージで、街が解放されたとして「この日は歴史に残るだろう」と喜びを隠さず述べました。しかし、民間人の犠牲者についての発言はありませんでした。彼が配信した動画には、路上に死体はありません。

<http://t.me/vityzeva/52988>

■ 4月2日、「ウクライナ国家警察」は、ウクライナ軍の特殊部隊がブチャに入る様子の(前日撮影と思われる)ビデオを公式リソースで公開しました。この映像でも、民間人の中に遺体はありません

[http://t.me/UA\\_National Po...](http://t.me/UA_National_Po...)

■ ブチャ市での遺体に関する情報が広まり始めたのは4月3日(最初の動画は4月1日に公開されたとあるが、その2日後に世間に知れ渡った)のです。

ウクライナ側が配信した動画では、ほぼ全ての遺体が白いリボンをつけています。これは、ロシア国防省と民間人の特徴です。

■ ブチャ市議で防衛ボランティアであるカテリーナ・ウクラインツェヴァは、「メドゥザ」のインタビューの中で、ロシア軍が自分の目の前で人を撃つことはなかったと認めています。同インタビューで、主な破壊の原因がウクライナ軍にあることを確認しています。「もしウクライナ軍がロシア軍に完全対応していたら、街は完全に破壊されていたでしょう」

<https://twitter.com/i/status/1690135189601882113>

